

無痛分娩(硬膜外麻酔分娩)を検討・希望されている方へ

当院では、妊婦さまのご希望により硬膜外麻酔分娩を行っております。

- ◎ 事前に「硬膜外麻酔分娩について」「当院における無痛分娩(硬膜外麻酔分娩)の方法」の説明書をお渡ししますので、よく読んでください。
- ◎ 希望される方にはDVDと書籍を貸出致しますので、よくご覧になりご家族と無痛分娩(硬膜外麻酔分娩)のメリット・デメリットについて話し合い、理解したうえでお申し込みください。
- ◎ 外来受診時、無痛分娩(硬膜外麻酔分娩)について不明な点があればご質問下さい。些細なことでも何度でもご説明致します。
- ◎ 無痛分娩(硬膜外麻酔分娩)の費用は、75~80万円です。(出産育児一時金の受け取り払い制度を利用された場合、予約金17万円のほか、退院時に差額分が必要になります。

お申し込み方法

外来受診時、妊娠28週前後までに無痛分娩(硬膜外麻酔分娩)の希望の有無をお知らせください。出産時までに承諾書を記入してお持ちください。

- ※ 陣痛がはじまってから、はじめてお申し出いただいても無痛分娩(硬膜外麻酔分娩)にきりかえることができなくはありません。ただし、十分ご説明させていただき理解していただいたうえで処置を始めます。したがって、分娩前から準備をしていた場合に比べ始めるまでに時間がかかったり、処置をする時期を失ってできない場合もあるということをご了承ください。

硬膜外麻酔分娩について

- A. 硬膜外麻酔分娩の向いている人は・・・
もともと痛みに弱かったり、お産に対して恐怖に似た不安のある方
高血圧や糖尿病、心臓の病気を持っている方
- B. 硬膜外麻酔分娩をしてはいけない人は・・・
- 1 血液が固まりにくい場合
 - 2 大量に出血していたり著しい脱水がある場合
 - 3 背骨に変形がある場合、背中の神経に病気がある場合
 - 4 注射する部位に膿（うみ）がたまっていたり、全身がばい菌に侵されている場合
 - 5 高い熱がある場合
 - 6 局所麻酔薬アレルギー
- C. 硬膜外無痛分娩のメリットは・・・
鎮痛作用が強くお産の痛みが軽くなることです。
- D. 硬膜外無痛分娩時によく起こる副作用は・・・
- 1 足の感覚が鈍くなる、足の力が入りにくくなる
 - 2 低血圧
 - 3 尿をしたい感じが弱い、尿が出しにくい
 - 4 かゆみ
 - 5 体温が上がる
 - 6 吐き気・嘔吐
- E. 硬膜外無痛分娩時にまれに起こる合併症は・・・
- 1 硬膜穿刺後頭痛
 - 2 血管内に麻酔の薬が入ってしまうこと
 - 3 お尻や太ももの電気が走るような感覚（放散痛）
 - 4 脊髄くも膜下腔に麻酔の薬が入ってしまうこと
 - 5 硬膜外腔や脊髄くも膜下腔に血のかたまり、膿（うみ）のたまりができること

F. 硬膜外麻酔によるお産や赤ちゃんへの影響は…

- 1 陣痛が弱くなったり、いきみが弱くなったりしがちなため分娩時間がすこし長くなることもある
- 2 陣痛促進剤の使用・鉗子(かんし)分娩、吸引分娩になる率が少し高くなる
- 3 赤ちゃんが産道をまわって出てくる方向の異常が起きることがある(回旋異常)
- 4 帝王切開になる率はほとんど変わらない
- 5 麻酔薬の一部赤ちゃんに移行するがほとんど問題にならない
- 6 産後の母乳中に麻酔薬の一部は移行するがその量は少なく問題はない

参考) 海外での硬膜外無痛分娩の実施率

高 い	アメリカ 60% (2001)
	フランス 60% (1998)
	オーストラリア 27% (2003 年)
	イギリス 23% (2006 年)
	ドイツ 18% (2002-2003 年)
	スウェーデン 16% (1998-2000 年)
	シンガポール 16% (1999 年)
	香港 15% (2001 年)
	台湾 9% (1999 年)
	イタリア 3% (1999-2000 年)
低 い	マレーシア 1.6% (1999 年)

その他の麻酔法をも含めるとさらに高率になる

よく聞かれますが、当院の実施率は 15~20%です。

当院における無痛分娩(硬膜外麻酔分娩)の方法

無痛分娩(硬膜外麻酔分娩)の進め方は、病院によって様々です。

当院では、原則として陣痛が来てある程度子宮口が開いてから行っています。したがって、全く無痛であるとは限りません。陣痛が来る前に入院して行う計画分娩は、原則として行っておりません。以下が実際の手順です。

- 1 陣痛がきたら、病院にお電話を下さい
その際、陣痛の状態とともに無痛分娩を希望していることを伝えてください
入院のタイミングは、居住地や初産・経産によっても異なりますので、
妊娠 35~36 週ころになったら外来受診時に確認してください
- 2 入院の際、無痛分娩(硬膜外麻酔分娩)の希望の意思と承諾書を確認いたします
- 3 陣痛が強くなったら硬膜外麻酔チューブを入れる処置を致します(DVD の通りです)
分娩衣に着替え排尿をすませてから、分娩室にお越しく下さい
点滴を刺し、必要量の水分を静脈内に入れます。分娩終了まで抜きません
処置が始まったら吐き気等の副作用対策のため、分娩終了までお食事は止めます
少量ずつなら水分のみとることはできます
- 4 硬膜外麻酔チューブを背中に固定したら、陣痛の強さに応じて持続ポンプあるいは注射器で
一定量を注入します
- 5 麻酔薬の効き具合によって、足がしびれて歩行できない時、感覚が鈍く排尿できない時には、
ときどき尿道に管をいれて尿を出すこともあります(痛くはありません)
- 6 母子の安全を守るために、分娩監視装置(外来受診時も 36 週ころから使用します)
や血圧計などのモニター類は原則として継続使用となります。
- 7 子宮口が全開大になり赤ちゃんが下降してきたら、分娩監視装置でお腹の張りを見ながらタ
イミングをはかっていきんでください(スタッフも声をかけます)
人によっては、張りや軽い痛みを感じてタイミングが分かる場合もあります
- 8 必要に応じて、陣痛促進剤の使用・吸引分娩等の処置が必要になることがありますその際に
は、改めてご説明いたします
- 9 分娩終了後ポンプを止め、2 時間様子を見てからチューブを抜きお部屋に帰ります

承諾書

私は、無痛分娩(硬膜外麻酔分娩)に関して以下のことについて、説明を受けました。
(該当項目にチェックしてください)

- DVD 視聴しました
- 書籍「痛くないお産 麻酔分娩がよ～くわかる本」を読みました
- 私は、硬膜外麻酔分娩をしてはいけない人に該当していません
- 硬膜外無痛分娩は自分にとって大きなメリットがあると考えます
- 硬膜外無痛分娩時によく起こる副作用について理解しました
- 硬膜外無痛分娩時にまれに起こる不具合があることを理解しました
- 硬膜外麻酔によるお産や赤ちゃんへの影響について理解しました
- 当院における無痛分娩(硬膜外麻酔分娩)の方法について理解しました
- 硬膜外無痛分娩にかかる費用と支払い方法について了解しました

私は、上記内容を理解したうえで、無痛分娩(硬膜外麻酔分娩)を希望します。

令和 年 月 日

妊婦氏名 印

配偶者または保護義務者
氏 名 印

医療法人 寿恵会
船橋レディスクリニック
船 橋 宏 幸 殿